

未来を今、手に入れる。
「次なるDX」でビジネスを新次元へ！



中小・中堅企業の経営者のみなさん！
あなたのビジョンを実現しませんか？

ITコーディネーターとは

急速なデジタル化の波に直面する現代社会

くらしのあらゆる場面に登場するネットワーク、生成AIの急成長、そしてDXへのシフト。

この変化の中心で、経営とITをつなぐ役割を果たすのがわたしたちITコーディネータです。

ITコーディネータは、企業の経営ビジョンの実現をめざし、ITの力でビジネス変革をリードします。

ITコーディネータは、経営者のみなさんとともに、ビジョンを実現するパートナーです。

ITC近畿会の取り組み

これまでの支援事例・実績

「IT経営カンファレンス in 近畿」

IT経営カンファレンスの開催を通じて、会員顧客企業や中小・中堅企業経営者へのIT、DXなどの啓発や意識改革を促進。

◆ ITC近畿会事業 / 毎年開催

中小企業IT利活用支援

補助金申請内容の検討のために、経営課題や業務課題の整理をサポート。

◆ (公財)京都高度技術研究所 / 2020年

「製造業のためのIoT導入セミナー」

IoTを導入し成果を出している中小製造業の経営者より事例発表と現地見学などを実施。近畿会が運営およびコーディネーションを担当。

◆ 尼崎商工会議所 / 2018年～2023年

セミナー・講習会事例・実績

IPA活動報告セミナー

(独法)情報処理推進機構の活動報告を受けることのできるセミナー。

DX、中小企業のDX事例紹介、中小企業の情報セキュリティなど。ITC近畿会独自。

◆ 毎年開催

DXのコアとなる基幹システム導入場面で、陥りがちなトラップの傾向と対策

基幹システムの導入時に、ありがちなトラップの傾向と対策を紹介する研修会(基幹システムの特徴:継続性と機能、QCDを支配する情報のタイミング、手段としての利用部門・システム専門家・フェーズ間の分業など)

◆ 2023年度

銀行は財務諸表のどこをみているか

円滑な資金調達を図るためには、自社の財務状況をしっかり把握し、対外的にもわかりやすく説明できることが重要。財務諸表の「見られているポイント」「説明すべきポイント」を解説する研修会

◆ 2023年度

「だいしん課題解決型マッチングフェア」

当会の相談ブースを設置し、企業からの様々な相談に対応。

◆ 大阪信用金庫 / 2023年

事業提携

同社顧客の課題整理やDX推進について、会として提携して支援。

◆ 株式会社アイル / 2021年～2023年



伴走支援における業務の見える化

DXや働き方改革に伴走型の支援で取り組むにあたり、顧客と業務プロセスを一緒に可視化し、問題点・課題を見つけ、共有する方法について再認識するための研修会

◆ 2022年度

今更何を？ 業務フローの書き方

業務プロセスの可視化を進めるに当たり、業務フローの作成・振り返りにより、課題を見つけ出す方法、課題と感じているプロセスの分析などを再認識するための研修会

◆ 2022年度



ITC近畿会に期待する

経済産業省 近畿経済産業局

地域経済部 次世代産業・情報政策課長 土屋 貴史 様

デジタル化が急速に進展し企業・顧客の行動様式が変化する中、地域の中堅・中小企業が今後も地域経済を支える主体として事業活動を継続していくためには、経営課題や事業環境の変化に合わせたビジネスモデルの変革、DXを進めることが重要です。

経済産業省では、DXレポートの策定やDX認定制度、DX推進指標等、様々な支援策を実施しておりますが、中堅・中小企業におかれましては業務のデジタル化にとどまるケースも多く、全社戦略に基づいてDXを推進するレベルに達している割合は少ない状況であります。

中堅・中小企業のDX実現に際しましては、経営者に寄り添い、経営とITの架け橋を担うITコーディネータの皆様が期待するところが非常に大きく、近年、ますます重要性が増してきているところです。

ITC近畿会におかれましては、引き続き、DX実現に向けた地域における推進機関として御活動いただき、関西経済の活性化に寄与いただくことを期待しております。

特定非営利活動法人 ITコーディネータ協会

会長 野村 真実 様

ITコーディネータ協会の野村です。平素より大変お世話になっております。

経営の重要な道具であるITは、技術革新により予想をはるかに超えたスピードで進展し、従来の個別開発型のシステム構築から、モバイルやクラウド型システムの利活用、インターネットへ多様な機器をつなぎ情報を利活用するIoT等、大きく変化してきましたが、2023年の今、生成型AIの急激な普及により、人々の働き方、ITとの付き合い方を根本から考え直す段階にきています。これを脅威ととるか、それともチャンスととるかでは経営の成果に大きな差がでてきてしまう事をITコーディネータは、丁寧に伝えていく使命があります。

ITC近畿会の皆様は時代の要請に応え、一人一人がリーダーシップを発揮し、日本の中小企業や自治体のDX推進に寄与していただけることを期待しています。

今こそ「IT経営とDXを実現するプロフェッショナル」、ITコーディネータの出番です！

理事長あいさつ

特定非営利活動法人ITC近畿会
理事長
垣見 多容



ITC近畿会の活動にご理解とご支援を賜りましてありがとうございます。

ようやく訪れたコロナ禍からの脱却を感じる間もなく、社会情勢は、地政学的要因による国際社会の混乱、円安・資源高による国内経済の混乱の波にもまれています。その一方で、コロナ禍以前に戻りつつある国内のビジネスを取り巻く環境、それに伴う消費やインバウンド需要の回復といったプラスの動向も感じられる状況となっています。

この3年間に、リモートワークをはじめとした働き方の変化、ChatGPTに代表される生成AIの急展開も背景に、今の世の中はデジタルなしでは生き残れない、ということが共通の認識となり、DXの推進やデジタル化を志向する企業のニーズの高まりは大きなトレンドとなっています。

こうした中であって、われわれITコーディネータは、引き続き我が国経済の基盤である中小・中堅企業の発展を支え、デジタル化、DX化を強力に支援する存在であり続けます。

また、そうしたITコーディネータ像実現のため、会員相互に経験やノウハウを交流する場を創造し、会員の対応力の強化や会員に向けたビジネスチャンスの提供に取り組んでいく所存です。

さらに、企業内に在籍するITコーディネータ資格者の活躍を更に支援し、その価値を最大限に引き出す施策を考え、実行してまいります。

引き続きのご指導とご協力を賜りますようお願いを申し上げます。

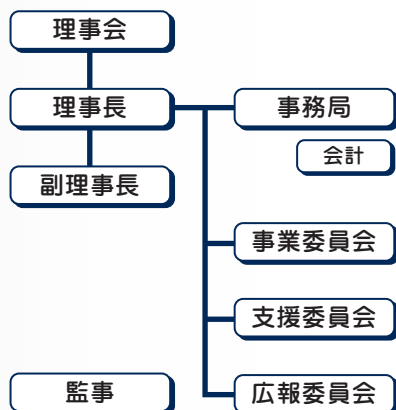
沿革と活動内容

ITC近畿会は、2002年、近畿地区在住のITコーディネータのコミュニティ組織(任意団体)として設立され、2010年4月、特定非営利活動法人に移行しました。

経営とITにかかわる様々な課題を専門的に研究、実践することを通じて、近畿地区の中小・中堅企業、団体などの情報化、デジタル化の推進、ITコーディネータの社会的地位の確立をめざしています。また、IT経営ノウハウが集約されることで、近畿地区に限らず、各地域での経済活動の活性化及びデジタル化による社会の発展に寄与することも目的としています。

近畿2府4県(大阪府、京都府、滋賀県、奈良県、兵庫県、和歌山県)と福井県を活動エリアとしています。

組織図



事務局

- ・ITC近畿会の理事会の開催、総会の運営など
- ・ITC近畿会の会員管理、対外窓口などの活動の企画・調整・実施
- ・ITC近畿会のホームページの維持・管理

事業委員会

- ・企業や各種団体に対するビジネス支援
- ・会員ITCに対するビジネス機会の提供
- ・経営者向けセミナー等の実施

支援委員会

- ・会員の知識・技能の向上につながる、研修会・講習会などを開催
- ・会員に対して情報提供を行い、関係する事業者との連携を模索
- ・会員間の交流を図る各種事業を実施

広報委員会

- ・ITコーディネータの意義や目的の普及・啓発
- ・ITC近畿会の各種活動の広報、対外交渉窓口
- ・ホームページやグループウェアの活用方法の企画など

※メッセージをお寄せいただいたみなさんの所属や役職は、パンフレット発行時点のものです。

一般財団法人 関西情報センター

常務理事 竹中 篤 様

昨今、DXの重要性が叫ばれていますが、DXとは元々は「ITの浸透が、人々の生活をあらゆる面で、より良い方向に変化させる」と定義されたものです。これを企業側から見ると、「ITを駆使して、いかに『より良い(=幸福をもたらす)』商品を提供して行けるか」ということです。

そこでKIISでは、DX推進による「ハピネス・ドリブン・エコノミー」の創出を提唱し、種々の支援事業に取り組んでいます。

DXの推進に欠かせないのは、ITと経営・ビジネスの知見ですが、この両方を持つ人材は、企業内では圧倒的に不足しています。

今まさに企業側から、ITCの持つ知見と実行力が求められているのです。KIISにおけるDX支援事業も、個別企業支援の段階に入っており、垣見理事長を始めITC近畿会の皆様のご協力を得て、ご好評をいただいております。

この連携関係を今後より一層強固にし、関西企業のDX推進、ひいては「ハピネス・ドリブン・エコノミー」の創出に向け、その原動力となっていただけのことをご大なる期待を持って、お願い申し上げます。

尼崎商工会議所

産業部 地域振興グループ 課長 養田 茂雄 様

ITC近畿会の皆様には、尼崎商工会議所が主催する中小ものづくり企業への生産性向上や経営革新を目的に行う「DX支援事業」の事業運営について全般的なご支援をいただいております。

具体的には、事業実施に当たり、製造現場で起きている実際の課題やその解決方法についてIoTやAI等の具体的な活用方法をご紹介いただく他、DXに関わるセミナーの企画や事例企業の紹介、当日の運営を担っていただきました。その他、企業の課題に合わせて専門家としても、DXを検討される企業に対して個別支援も行っていただきました。

製造業は、生産技術や工程など専門的な部分が多く、さらに、DXに関して情報も少なく、当所職員だけでは事業実施は困難なため、様々なアドバイスをいただき、無事事業実施が出来ただけでなく、多くのものづくり企業の生産性向上のヒントに繋げることが出来ました。IT×製造業支援が出来る専門家は非常に少なく、今後ご支援・ご指導いただければ幸いです。

一緒に、ITコーディネータとして活躍しませんか？

ITコーディネータの役割

企業は、日々変化する社会情勢や経済環境などを先取りし、デジタルの力を活かして、以下のような経営課題を実現することが必要です。こうした課題について、経営層や経営トップを支援するのがITコーディネータの重要な役割です。

- ① 社会情勢・経営環境の変化を認識する。
- ② 時代に即した経営戦略・経営ビジョンを立案する。
- ③ DXの考えに基づく事業改革・業務改革を推進する。
- ④ デジタル化、および、IT資源を調達・導入する。
- ⑤ 持続可能な社会の実現に貢献する。



企業で活躍するITコーディネータ

ITコーディネータは、その資格や知識を生かして、企業の中でも活躍しています。一般の企業であれば、社内の業務改革やDX推進の中核メンバーとして、システムベンダーでは、お客様の立場に立って、お客様に寄り添った提案や支援をすることで、お客様にも所属する企業にもWin-Winの関係を築く橋渡しとなっています。ITC近畿会にも、企業内ITコーディネータが数多く在籍しており、独立したITコーディネータでは対応できない、より専門性の高い案件などに、自社のソリューションやサポート力を生かして支援するなど活躍しています。

ITコーディネータになるには

「ITコーディネータ試験の合格」と「ケース研修の受講・修了」の2つの条件をクリアする必要があります。

✓ ITコーディネータ試験とは

ITコーディネータ試験は、ケース研修の受講修了と合わせて、ITコーディネータ資格取得の条件となるもので、年間2回(各期間50日程度)実施しています。試験方式はCBT方式(コンピュータを使用した受験)ですので、受験者が予め希望する受験日時(実施期間内)と受験会場(約300ヶ所)を予約することができます。

✓ ケース研修とは

ケース研修は、あらゆる組織に適応可能なベストプラクティスであるIT経営プロセス(IT経営推進プロセスガイドライン)を活用した活動を仮想企業を題材に疑似体験することによって、IT経営の推進方法、およびITコーディネータの業務や使命を修得します。ケース研修は、集合開催形式のほか、オンライン開催コースもあります。

ITC近畿会はケース研修を開催しています

ITC近畿会も、ケース研修実施団体として、定期的にケース研修を開催しています。詳しくは、ITコーディネータ協会のHP、または、下記に記載のITC近畿会HPをご覧ください。

入会のご案内 《ITC近畿会ホームページ専用フォームよりお申し込み下さい》

ITC近畿会へのご入会は、ITコーディネータの資格の有無は問いません。ITコーディネータの活動に関心のある個人(正会員)または法人(賛助会員)の方のご入会をお待ちしています。ご希望の方は、ITC近畿会ホームページの入会案内より必要事項を入力の上お申し込みください。なお、2023年度年会費は、正会員ひとりにつき5,000円となっています。



ITC近畿会ホームページ <https://www.itckinki.jp>

ITC近畿会からの最新情報、セミナー案内、ITC近畿会の各種基本情報などを対外的に掲載しているWebサイトです。会員向けのグループウェアへの入り口も用意しています。お問い合わせやご用命もこちらからお願いします。



ギリシャ神話において、フクロウは知恵の女神アテナの象徴であるとされる。ITやIT経営について幅広い知識や経験を持つITコーディネーターを象徴するシンボルとして、フクロウをイメージキャラクターに使用。